

特別養護老人ホームふたば荘

1. 総務及び経理

総合目標及び課題

- ・施設を利用する方が、安心安全に利用できるようにフローリング・クロスの張替工事、中間浴槽更新、移乗用リフト購入など、計画的に実施した。また、設備の保守に努めた。
- ・働き方改革及び特定処遇改善加算への対応を行った。

目標及び課題	成果等
(1) 事務処理の効率化	① 総務及び経理業務について、複数の職員が対応出来るよう業務の習熟は行うことが出来なかった。
(2) 予算管理の適切な執行	① 10月に予定されている消費税増税にともなう介護報酬改定に対応しました。 ② 中間浴槽について、9月に事業費3,996,000円で更新しました。 ③ 廊下及びロビー等のフローリング・クロス張替工事を4月～7月にかけて事業費8,359,146円を実施しました。 ④ その他必要に応じ、各種修繕工事を実施しました。
(3) 労働衛生の充実	① 有給休暇5日以上取得を行った結果、平均約11日を取得することができた。
(4) 職員の定着・処遇改善	① 特定処遇改善加算を算定し、10月から職員へ特定処遇改善手当の支給を行った。 ② 働き方改革の一環として、10月から年間休日を104日へ変更した。
(5) 防災・防犯対策	① 防災訓練を、火災避難訓練年2回・地震災害訓練年2回・水害訓練年1回を計画し実施しました。 ② 防犯訓練は、COVID-19の影響で延期となり、行えなかった。 ③ BCP（事業継続計画）を策定しました。

2. 相談及び援助

総合目標及び課題

利用者がその人らしい生活を送れるよう、多職種や家族・地域と連携・協働してサービスが提供できるよう努めた。

目標及び課題	成果等
(1) 特養入所の稼働率の維持・向上のための取り組み	① 稼働率96% (76.6人/日) と目標値95% (76.0人/日) を上回った。
(2) 看取り介護への積極的な取り組み	① 入所時に、将来に備え看取りについて、看取り指針に基づき説明を行い、利用者・家族の意向に沿って、施設内での看取りを行った。 ② 終末期を迎えた利用者の家族には、随時状況説明を行い、また、臨終の際は立ち会うことが出来るように支援を行った。
(3) 短期入所生活介護の稼働率の維持・向上への取り組み	① 1日平均4.0の目標に対して、3.9の稼働実績となった。 ② 家族、CMへは記録を用いて利用状況について情報提供に努めた。また、サービスについては、本人・家族の意向に沿った短期入所サービス計画書を作成してサービスの提供を行った。
(4) 特養申込者・短期入所利用者増加への取り組み	① 積極的に居宅介護支援事業所に訪問は行わずに、利用調整用紙で空床情報の提供を行った。
(5) 苦情・相談受付	① 要望のあったご意見箱の運用を見直し、環境整備を行った。 ② 相談・苦情があった際は、速やかに事実確認を行い、経緯の説明を行えた。また、速やかに対応方法を検討し改善に努めた。 ③ 第三者委員を交えた苦情相談懇談会を6月に開催し、外部からの評価・意見を取り入れサービス向上に努めた。
(6) 事故発生時の対応	① 事故発生時は、状況確認を行い速やかに家族に報告を行った。また、状況に応じ、受診等の適切な対応を行った。
(7) 社会資源を活用したボランティアの受け入れ	① 多くのボランティアを受け入れることにより、利用者のQOL向上に繋げることが出来た。 ② 活動支援及び情報提供は実施したが、活動の活性化には繋がらなかった。
(8) 利用者・家族・施設間の円滑な支援と調整	① 家族会については、6月・12月の2回開催し、現状の報告などの説明を行い、意見・要望については、サービス向上に繋がるよう取り組みを行った。

3. 介 護

総合目標及び課題

- ・ふたば会の理念のもと、寄り添うことを目標とした。認知症状のひどい利用者や訴えのある利用者には寄り添って穏やかに過ごしていただけるように努めたが、静かに過ごされている利用者には、十分に寄り添うことが出来なかった。職員の不足もあるが、日常の関わりの中で少しずつ関わりを充実していく必要を感じた。
- ・喀痰吸引等特定医行為については、3名受講し15名が有資格となった。また、専門的なポジショニングや口腔ケア、アセスメント等研修に参加した。
- ・利用者のカンファレンスは、多職種で検討し具体策をプランにすることが出来た。

目標及び課題	成果等
(1) 個別ケアの充実	<p>① 多職種が連携し、カンファレンスで各専門のアセスメントにより利用者個別のプランを策定することが出来た。</p> <p>排泄：移乗介助時に介助量の多い利用者にはスカイリフトを使用して負担軽減に努め、トイレでの排泄を支援して気持ちの良い排泄に努めた。</p> <p>口腔ケア：歯科医師・歯科衛生士のアドバイスを受けて情報共有し、口腔ケアに努めた。委員会では、各グループ少人数からでも徹底した口腔ケアに取り組むように都度検討した。</p> <p>食事：多職種で情報共有し、その人にあった食形態及び介助方法を共有した。</p> <p>入浴：利用者の希望及び体調を考慮して入浴時間、湯温の調整を行った。</p> <p>ケアプラン；カンファレンスには、出来るだけ家族にも参加頂けるよう取り組んだ。また、不参加のときは要望等を確認した。本人・家族の要望を反映できるように多職種でアセスメントを基に、分かりやすい具体的なケアプランの策定に努めた。策定したケアプランは、情報共有し実施した。</p>
(2) 統一したサービス支援の提供	<p>① 部署会では、一人ひとりのケア方法について具体的に検討し徹底を図った。</p> <p>② 喀痰吸引等特定医行為及び認知症介護実践者研修に受講し、修了した。</p> <p>③ 研修内容は、職員会等で伝達したが、利用者に戻元できるところにはまでは到達することが出来なかった。今後、職員が研修したことを伝え利用者のケアに活かすことができる方法が課題となった。</p> <p>④ 口腔ケアの研修には、参加出来なかった。</p>

<p>(3) 楽しみに向けての取り組み</p>	<p>⑤ 看取りケアの研修では、担当看護職員が研修を開催し看取りに対する意識を高めることができた。</p> <p>① 利用者・ご家族からあった要望に対して、外出や外食、または入浴やヘアカラーなど個別に対応した。定期的に買い物を楽しみにされている利用者が多く多職種で協力して対応した。 しかし、COVID-19 感染拡大予防で外出等の支援が行えなくなった。その、代わりとしてネットスーパーを利用し買い物支援をすることにより、ストレス軽減に努めた。</p> <p>② グループでの利用者の楽しみ作りでは、外気浴をしていただいたり、花を観賞したり、リビングでゲームをしたりと取り組んだ。</p>
<p>(4) 接遇の共通認識</p>	<p>① 利用者の要望を聞き取るために、寄り添い傾聴に取り組んだ。要望に対しては、可能なことは多職種で協働で取り組んだ。</p> <p>② 「笑顔で挨拶をする」という基本を大切に取り組んだが、出来ていない職員も居り、今後も継続した課題となった。</p> <p>③ 外部の接遇研修に参加は出来なかった。</p>

・すみれグループ

<p>「利用者本位の立場で、その人らしく生活できるよう、本人やご家族の意向を確認し支援します。」をスローガンとし、次の事を具体的に取り組んだ。</p>	<p>① 利用者、ご家族に対し笑顔で挨拶、コミュニケーションを図る事により、利用者、ご家族の思い要望などを組み取り可能な限り対応した。</p> <p>② 全体行事とは別に個別の外出行事は、定期的実施できた。しかし、おやつ作りや遠足等・グループ全体での行事については実施出来なかった。</p> <p>③ 床頭台・ベッド周りの清掃については、日直が確認を行い、汚れが見られる時には、グループ職員で掃除や整理整頓に努めた。</p> <p>④ その人らしい生活が継続して送れるよう、個々のケアプランと共に身体レベルの維持向上を目指し、以下の取り組みに努めた。 ア. 口腔ケアの取り組みは、グループ職員の役割を決める事により、習慣づける事が出来た。 イ. 立位が不安定になっている利用者に対し、職員2名での対応を行う事で、安全にトイレでの排泄支援を継続して行う事が出来た。</p>
---	---

	<p>ウ. 離床が難しい利用者に対し、看護職員・機能訓練指導員と連携を取りながら、不定期であるが離床を行い、外の景色を見たり、テレビを見たり、気分転換を図る事が出来た。</p> <p>エ. スライドシート、スライドボード等の福祉用具を使用する事により、擦過傷等の事故を防ぐ事が出来た。</p> <p>⑥ 終末期であっても体調を考慮し、一時帰宅や散歩を行い、最後まで、穏やかに暮らせるように努めた。また、施設生活での思い出の写真を居室に飾った。</p>
--	---

・たんぽぽグループ

<p>「利用者に寄り添い、尊厳と安心・自立に満ちた、より良い生活を送れるように支援します」をスローガンとし、次のことを具体的に取り組みました。</p>	<p>① カンファレンス時や面会時にご家族の要望を伺い、その思いを汲み取りケアプランに反映させ実施したが、グループ内全員の要望を実現する事は出来なかった。</p> <p>② 日々、利用者一人ひとりに関わる中で、その方の出来ることしたいこと可能性を見つけケアプランに反映し、ADLの向上や生活の楽しみに繋げる事が出来た。</p> <p>③ 全員の方では無いが、毎週のカラオケや季節毎の行事に参加しメリハリのある生活を送って頂く事が出来た。しかし、COVID-19感染拡大予防のため、大人数が参加する行事は中止となり参加して頂く事が出来なかった。</p> <p>④ 立位不安定や立位困難な利用者には、2名対応やスカイリフト・簡易ベッドの使用でケガ無く安全に移乗し、トイレ内での排泄を継続して行えるよう支援する事が出来た。</p> <p>⑤ 機能訓練指導員の評価も取り入れながら、身体面・体調面を考慮しながら無理の無い離床を行い、行事参加や他者との関わりで刺激のある日中を過ごし夜間良眠に繋げる事が出来た。</p> <p>⑥ 利用者との関わりを積極的に行う事で体調を把握し、入浴やオムツ交換・トイレ誘導時には皮膚の観察を行い、利用者の変化を早期発見し他職種と連携のうえ早期対応を行う事が出来た。</p> <p>⑦ 居室のコルクボードに写真や色紙、カレンダーを飾り、明るい居室環境を心がけた。</p>
---	--

・ひまわりグループ

<p>「利用者一人ひとりの状態を把握し、その人らしい生活ができる様に援助します」をスローガンとし、次の事を具体的に取り組みました。</p>	<p>① タンス等の上に物を置かないよう、危険物の整理は行えたが、週1回の居室清掃は毎回全居室を行う事は出来なかった。</p> <p>② 引継ぎやグループ会で業務内容や利用者の方の情報を共有する事でグループ内で統一した業務や介護を行う事が出来た。</p> <p>③ 利用者一人ひとりの要望やニーズを日々の支援の中で観察、傾聴し援助方法を検討することが出来た。</p> <p>④ 日中の離床時間の延長や、行事への参加を促す事により、生活を送る中で個々の意欲を引き出し、楽しみのある生活を送って頂けるように支援する事が出来た。</p> <p>⑤ 日々の関わりの中で、一人ひとりの出来る事を見つけ、声掛け促す事で何名かは楽しみながら習慣化する事が出来た。</p> <p>⑥ ご家族の面会時には生活状況を伝える事で安心して頂けるように努めたが、お話出来る機会が少ない時もあり、全利用者のご家族の方に満足のいくコミュニケーションを図る事は出来なかった。</p>
---	---

4. 厨房

総合目標及び課題

- ・利用者が、健康で安定した生活が送れるよう、適切な栄養量を算定し、安全な食事の提供に努める事が出来た。今後は、現状の維持が出来る様に利用者に関わりを持ち、寄り添い、穏やかに暮らす事が出来るような支援が必要であると感じた。
- ・普段の食事からは、食べることの楽しさと満足をしていただける日は少なかった。出来上がり状態で全ての食事に味の付け直しは、かなり難しいが調味料を足して解決をする場合は、味を付け直し、美味しい食事の提供が課題となった。

目標及び課題	成果等
(1) 栄養ケアの実践	① 栄養状態が向上することにより、健康状態が安定し、安らぎのある、その人らしい暮らしを援助する事が出来た。
(2) 摂食、嚥下機能に応じた食事の提供	① ご利用者様のご意見を傾聴し、多職種で連携を取り、個々に合った食事形態を話し合い、安全で無理なく食べられる食事の提供を行った。

(3) 適切な栄養量	① 一人ひとりに依り、食事摂取量の違いが有るが、体格や活動量から、必要な栄養量の算出し、適切な栄養量を提供した。現在、体重の減少傾向は止まり、現状の維持及び増加傾向を確認する事が出来ている。
(4) 楽しみのあるおいしい食事の提供	① 毎月の楽しみにされている行事食は、利用者の要望・嗜好や地域の伝統的な食べ物及び旬の食材を取り入れ、ご利用者様に満足をしていただける内容とした。
(5) 安全な食事の提供	① 食材の温度管理や衛生的な取り扱いに留意し、食中毒などを起こさないよう徹底した。

5. 機能訓練

総合目標及び課題

- ・利用者の心身の諸機能の維持回復を図るため、各々個別訓練計画書を作成し、その計画に基づき各専門職との協働により実践に努めた。
- ・科学的介護実践に基づき利用者の自立支援のため身体機能、認知機能評価を定期的実施し、実践に努めた。
- ・今年度は、介護予防教室として船木地区の地域に出向き、高齢者の運動について関わりをもった。

目標及び課題	成果等
(1) 利用者の心身の諸機能の維持、改善を目的とした生活リハビリの充実	<p>① 利用者全員の心身の定期定な評価を実施し、ケアプラン策定時に心身の状況から具体的協働内容の提示を実施しており、身体機能の評価及び認知機能の評価を実施した。</p> <p>② 個別機能訓練実施後の中間報告として、3ヶ月ごとに利用者及び家族に対し口頭又は書面（郵送）で説明の実施をしており、その際は、施設ケアマネにも状況の確認を行い、協働して継続的に実施した。</p>
(2) 利用者への安全な介助方法、介護者の負担を軽減させる介助方法の指導	① 利用者の身体機能に応じた介助方法の指導、福祉用具の選択をカンファレンス等を通して実施した。利用者の介助中における事故が見られているため安全な介助方法の指導は浸透しておらず、不十分であった。

(3) 褥瘡予防、改善へのアプローチ	① 褥瘡ハイリスクの利用者に対して褥瘡予防、改善のためポジショニングシートと体位変換表を作成して実施した。褥瘡治癒は早期に実施できているが、褥瘡発生者はゼロではないため、今後褥瘡発生ゼロを目指し、ポジショニングを各部署に徹底していくことが課題となった。
--------------------	--

6. 健康管理

総合目標及び課題

- ・入所者の基礎疾患を踏まえた上で施設内での安全・安楽な生活援助を行えた。数名の利用者が既往疾患の悪化に伴い入院の長期化・退所を迎えることがあった。
- ・看取り開始・終結に加え看取り開始前にも多職種を交えてカンファレンスを持つことで利用者・家族の思いの共有化が出来た。

目標及び課題	成果等
(1) 日常生活の健康管理	① 朝礼にて利用者の夜間の状況把握を行い、日中の介護職員よりの速やかな状態報告をうけ、状態の悪化を予測し、早期対応に努めるよう医師と連携治療、速やかな病院受診を行えた。
(2) 他職種との連携	① 定期検査に加えて疾患によって追跡検査を行うことで、悪化防止に務めることが出来た。今後は、より多職種との情報共有が課題となった。
(3) 薬剤・投薬の適切な管理	① 服薬管理マニュアルの見直しを行い、誤薬予防、誤薬時の早期対処を心がけ、誤薬事故の発生はなかったが、軟膏の異食行為が1件発生した。
(4) 職員への医療教育	① 昨年度より、学習会に新居浜市出前講座を活用し、感染・褥瘡・看取りの学習会を行った。全職員に理解しやすい講義であった。

10. 指定居宅介護支援

- ・ 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域共生社会の実現に向けて取り組んだ。
- ・ 地域包括ケアシステムの構築を目指し、関係機関との連携を図り、必要とされるサービスを切れ目なく提供できるサポート体制を整えた。

目標及び課題	成果等
(1) 効果的かつ効率的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者や家族への豊富な情報提供により、自立支援に向けた居宅サービス計画を、多角的に提案した。 ② サービス提供事業所との密な連携により、利用者の状況を適時把握し、状況に合ったサービスを提供できるよう努力した。
(2) 在宅医療・介護連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療機関と連絡をとり、入退院時の調整をスムーズに行えるよう調整した。 ② 在宅医療に係る情報を収集し、利用者・家族等へ情報提供を行った。 ③ 多職種協働によりネットワークを広げ、サービスを一体的に提供できるよう支援した。
(3) 職員の研鑽	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員のコミュニケーション能力、ケアマネジメント能力の向上のため、研修に参加した。 ② 業務に関連する研修会に参加し、要支援から要介護まで一人の方を継続して支援できる知識と能力の向上に努めた。
(4) 事業所内の連携と法人内事業所との協力	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業所内での情報の共有を行い、円滑な対応を行った。 ② 適切な情報交換により、地域への協働体制を目指した。

11. 通所介護事業所 (含 介護予防通所介護事業所)

総合目標及び課題

事業休止中につき、今後の事業について検討を行った。

目標及び課題	成果等
(1) 事業の検討	令和2年3月31日をもって事業廃止となった。

12. 在宅介護支援センター

- ・新居浜市地域包括支援センターが行う総合相談支援業務及び権利擁護業務等に協力した。
- ・在宅介護支援センターは次に定める事業を行った。

目標及び課題	成果等
(1) 総合相談支援業務 「高齢者や家族からの総合的な介護や福祉に関する相談」	延相談件数 91 件 (内訳：電話 32 件・訪問 54 件 来所 4 件・その他 1 件) 「認知症サポーター養成講座補助」 講師 2 回、演者 3 回
(2) 地域ケアネットワーク推進協議会の開催	「船木地域ケアネットワーク推進協議会」： 3 回 「泉川地域ケアネットワーク推進協議会」： 1 回
(3) 地域の中核ネットワーク「協議体」の参加	平成 30 年 10 月に船木校区の「協議体」を設置以降、毎月の定例会に参加した。
(4) 泉川見守り・SOS ネットワーク協議会	泉川見守り・SOS ネットワーク協議会： 8 回 捜索模擬訓練： 2 回
(5) 一般高齢者介護予防教室	一般高齢者介護予防教室開催状況（上部東教室） 期間：令和元年 8 月～12 月/全 13 回開催 場所：船木公民館を使用。 参加者数：23 名（定員 25 名）

13. 委員会活動

目標及び課題	成果等
【環境委員会】 利用者・職員が快適に生活出来る空間を提供できるよう、施設内外の環境整備に努めた。	① 月 1 回奉仕デイを実施し、施設内外の環境美化に努めた。3 月からは、奉仕デイの日を軸に作業週間とし、各部署で決められた場所の清掃を実施した。また、除草作業以外の清掃については、現状通り男性職員を中心に奉仕デイの日を実施した。 ② 花壇については、大半を多年草に植え替えたことから今年度は、担当を決めずに奉仕デイで植木の剪定を実施した。

<p>【サービス向上委員会】 施設生活や利用者個人に関する課題について多職種で協議し、サービスの質向上を図った。</p> <p>【感染委員会】 施設では、抵抗力が弱い利用者が生活しています、感染の拡大を最小限にする事に努めた。</p> <p>【給食委員会】 食事を通して、利用者の健康保持と生活の楽しみを提供できる活動に努めた。</p>	<p>① 運動会や紅葉見物、買い物や外食など色々な行事に於いて介護職員だけでなく多職種で計画して取り組む事で利用者の多様なサービスにつなぐことが出来た。</p> <p>② 委員会の中で各行事や、各部署の検討議題など協議した。また、事故予防員会や口腔ケア委員会とも連携を取り議題の周知徹底を図る事が出来た。</p> <p>施設において、感染に対する抵抗力が弱い利用者が集団で生活する場所のため、平常時から対策を実施し発生時には迅速な対応が出来るように職員の意識レベルの向上を図った。また、感染症が発生した場合、その拡大を最小限に抑えるように施設全体で取り組むよう努めた。</p> <p>① 委員会開催回数及び出席人数 年間／12回 出席延べ人数／86名</p> <p>② 令和元年度の活動と結果について インフルエンザの感染については、平年通り利用者・職員のワクチン接種を行い、11月より手洗いうがいの徹底も行い現時点でのインフルエンザの発生はなかった。 MRSA罹患患者に対しての定期的な検査・退院時の検査を行う事でMRSAの拡散みられなかった。 2月から、世界的な COVID-19 の感染拡大にともない、臨時委員会開催し感染予防に努めた。</p> <p>① 毎月、行事食の計画立案を実施。 ② 毎月、体重や、体調、嗜好の変化に伴い、個々の食事形態の検討を行った。また、高リスク者に対しては、個々人の問題点を抽出し、対応を実施した。 ③ 水分補給や食事形態、食事介助などの検討をした。 ④ 経口摂取維持の為に口腔ケア及び食事介助、食形態について評価をし、誤嚥の予防に努めた。 ⑤ 栄養提供量の見直しを実施。 ⑥ 検食簿の所感を公表し、より良い給食を提供が出来るように検討をし、まとめて提出をした。</p>
--	--

<p>【広報委員会】 広報誌を通じて利用者・家族・地域等に対して、施設生活の様子を伝える事ができるよう活動を実施し、施設への関心を高める事に努めた。</p> <p>【研修委員会】 施設内研修を計画し実施した。</p> <p>【事故防止委員会】 介護事故の予防・減災に努めた。</p> <p>【言葉・態度委員会】 利用者・外来者・職員が心地よく感じられる、接遇を目指し言葉遣い・態度について見直しをおこなった。</p> <p>【褥瘡委員会】 施設内で褥瘡が発生しないように努めた。</p>	<p>① 年6部奇数月に、広報誌を発行した。 ② ふたば夏祭りのポスターを各所に設置した。 ③ 発送先と必要部数の確認を行い、法人全体で毎月1,000部の発刊で調整を行った。 ④ 事務所前の壁面飾りを部所ごとに担当を設け、季節に応じた飾り付けをして環境作りに取り組んだ。</p> <p>① 介護サービスの基礎力と応用力の向上を目指し、年9回の内部学習会を実施し、延べ257名の参加があった。(平均参加人数28.6名、69.8%)施設内実践報告では、職員の想いだけでなく、根拠ある介護の実践がより重要であることを感じさせられた。今年度から実践した欠席者のレポート提出により、内容のフィードバックと情報の共有が図れた。</p> <p>① 介護事故再発防止のため、報告された事例に関しては集計し各グループで事故の傾向を分析し、具体的に対策を委員会の中で検討した。 ② ヒヤリハットの様式を簡略化して、より提出しやすい様式に変更した。 ③ 重大事故については、10件の事故を新居浜市介護福祉課・東予地方局に提出した。</p> <p>「笑顔で挨拶」をテーマに取り組んだ。 ① 来荘された方や利用者が、気持ち良く過ごして頂けるように啓発活動に取り組んだ。しかし、出来ない職員もいるので、次年度以降も引き続き課題となった。 ② 職員同士も、年や経験に関係なく相手を尊重して「ちゃん付け」をせず、きちんと「さん」と呼ぶことの定着が出来なかった。 ※面会の方等、職員の言葉使いなどに対しての意見を参考とし委員会にて話し合いを行う事によって職員の接遇に対しての意識を見直す事に繋がるように努めた。</p> <p>年12回開催し施設において褥瘡が発生しないように委員会で、発生予防や対策を検討した。 ① 褥瘡対策に対する計画書を、各職種で3ヶ月に1回評価し、リスクのある利用者はケアプランに組み込み毎月褥瘡が発生しないように評価した。</p>
---	---

<p>【排泄委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレでの自立した排泄。 (排せつ支援加算の取り組み) ・トイレでの気持ちよい排泄。 ・感染予防と良好な皮膚状態の維持。 ・適切なオムツの使用。 	<ul style="list-style-type: none"> ② 本年度の褥瘡発生者は7名という結果になった。今後も、褥瘡発生しないように褥瘡「0」を目指し各職種で協力していくことが課題となった。 ① 排泄支援計画書を作成し、排泄に関する一連の行為について、できる限り自立に近づくよう取り組みを行った。ケアプランに盛り込むことで、日々の実施評価、月毎の状態変化の評価を行うことができた。 ② 排尿に関しては、誘導時間の調整や使用する下着やパットの見直しで、全介助から一部介助、または声掛け・見守りなどへの改善が図れた。 ③ 排便に関しては、緩下剤の使用により便の状態が安定せず、パットを汚しても自力での交換が困難であったり、拭き取りが自分では行えず、介助が必要な状態からの改善は難しかった。緩下剤の使用方法や便秘解消のための取り組みが今後の課題となった。 ① 立位が困難であっても、トイレで気持ちよく排泄するために、リフトを使用することにより、利用者・介助者両者の負担を軽減しながら、トイレ誘導を継続する事ができた。 ② 定時でのトイレ誘導は継続して行えているが、利用者個々の状態や排泄リズムに合わせた誘導にはなっていない。誘導時にはトイレが大変混雑し、トイレ待ちの状態から失禁に繋がる可能性もある。個々の排泄リズムの獲得と、その人に合わせた誘導時間の見直しが今後の課題となった。 ① オムツ交換都度の陰部洗浄は、排泄委員が率先して声掛けを行うことで、ほぼ定着することができた。 ② 尿路感染の発生は減少している。皮膚の爛れは、身体状況や栄養状態により繰り返されたが、泡洗浄と乾燥を徹底し、悪化防止できた。 ① 尿量や身体状況に合わせて、使用オムツ・パットの選定を行った。必要以上に容量の大きなパットを使用しないことで、使用中の不快感の軽減と費用削減を図った。
--	---

特別養護老人ホームふたばの森

1. 事務

総合目標及び課題

開かれた施設経営を行うとともに利用者と地域貢献にお応え出来るように努めた。

また、それぞれの各事業所、職種間で連携が取れるように図った。

重点目標及び課題	成果等
(1) 予算執行について	① 予算に基づき、優先順位の高いものより執行した。 また、老朽化した機器の故障により業務に支障を来さないよう、迅速な対応に努めた。 ・複合型コピー機更新 ・温冷配膳車更新 ・ネットワークサーバー更新 ・ストックハウス設置（地域自治会災害用品も対応）
(2) 地域貢献への取り組みについて	① 毎週、月曜日には定期的に移動販売などが開催出来るように職員で協議を行いアウトリーチで地域住民の表明されていないニーズを掘り起こし、施設が有する機能を地域へ還元して貢献に繋げた。 ② 地域包括支援センターの委託事業「一般高齢者介護予防教室」（元気もりもり教室）を、ふたば荘と連携を取り実施。参加者の生活機能の改善を図ることを目標とし、「運動機能向上」「栄養改善」「口腔機能向上」「認知機能改善」「セルフケア能力・ソーシャルスキルの向上」をテーマに船木公民館にて全13回のプログラムで開催した。
(3) 防災への取り組みについて	① 「福祉避難所」として、非常災害時対応の機器が順次、納品された。また、自治会より非常食の保管場所が無いことから当施設へ保管場所の提供を依頼されたので、本年度より保管を始め覚書きを交わした。 ② 「LINEアプリ」を活用し、大規模災害時の連絡網を構築した。また、平常時には、感染予防や連絡ツールとして活用した。

2. 生活相談員

総合目標及び課題

施設理念に沿って利用者の満足と安心した生活に繋がるよう他職種と連携して、

個々に応じたサービスの提供に努めた。また、契約者と連絡を密に行い施設サービスの理解と関係作りに努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) 稼働率について	年間平均稼働率は94.6%となった。入所待機者を常時調整・確保し、空床が発生すると同時に新規入所者の利用調整を行うが、入退所7件において空床124日、平均17.7日間での新規利用者の入所契約となった。また、入院時の空床ベッドをショート利用に繋がる調整については、空床576日に対してショート利用15日、空床利用率2.6%にとどまった。
(2) 利用相談等の調整・対応について	契約者に対して利用者の服薬変更、事故発生時は速やかに連絡するように努めた。また、事故発生リスクの高い利用者に関しては、利用状況、様子を家族と共用できるように積極的に電話や面会時に情報を発信した。

3. 介護

総合目標及び課題

一人ひとりの要望に応えるとともにケアプランに個々の要望や、ご家族様の要望を反映させながら安全で安心した生活が過ごせるような手伝いをした。また、医務や心療内科医と連携を取りながら認知症状の改善を目標に努めた。

<さくらユニット>

重点目標及び課題	成果等															
(1) 個別ケアの充実	<p>① 個々にあったサービスを提供し、利用者や家族の要望もありマッサージの継続や外泊等をする事が出来た。</p> <p>② 医務と相談しながら緩下剤の調整や乳酸菌(イーザーファイバー) 乳酸菌等を摂って貰い出来るだけ自然排便が出るよう実施した。</p>															
(2) 接遇の共通認識	<p>① 挨拶は元気で明るい笑顔で接した。ユニットで毎月接遇目標を掲げ、ユニット会にて実施出来たかどうか話し合うようにした。</p>															
(3) 年間諸行事	<p>※個人的に外泊を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>行事</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>菖蒲、紫陽花見物</td> <td>11・24</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>外食</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>スイカ割り</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td></td> <td>森の発表会</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>	月	行事	実施日	6	菖蒲、紫陽花見物	11・24	7	外食	23	8	スイカ割り	7		森の発表会	13
月	行事	実施日														
6	菖蒲、紫陽花見物	11・24														
7	外食	23														
8	スイカ割り	7														
	森の発表会	13														

	9	ちびっ子ワールド	2 6
		芋炊き	2 6
	1 1	紅葉見物・外食	1 8・1 9
	1 2	船木小訪問 クリスマス忘年会	1 3・2 5
	1	拝賀式	1
	2	節分・賀寿の祝い	3・1 5
	3	花見	中止

<ふじユニット>

重点目標及び課題	成果等																																	
(1) 個別ケアの充実	① 好みの飲み物を提供し、トイレ誘導時の立位保持により腹圧をかけてもらったり、個別に食物繊維（バナナ、みかん、イーザーファイバー等）を摂ってもらい自然排便を促せるよう利用者の状態を細かく観察した。																																	
(2) 接遇の共通認識	① 元気に笑顔で挨拶を行った。 ② 感謝の気持ちを忘れないようにした。 ③ 接遇委員会と相談しながら毎月のユニット会で接遇目標を決めて評価もユニット会で話し合う事にした。																																	
(3) 年間諸行事	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>行事</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>菖蒲、紫陽花見物</td> <td>1 0</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ユニット行事（外出）</td> <td>2 5</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>昭和歌謡ライブ</td> <td>2 7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">9</td> <td>ユニット行事（外出）</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>ユニット行事（発表会）</td> <td>1 4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1 0</td> <td>ユニット行事（外出）</td> <td>2 5</td> </tr> <tr> <td>地方祭</td> <td>1 6・1 8</td> </tr> <tr> <td>1 1</td> <td>ユニット行事（紅葉）</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1 2</td> <td>船木小訪問</td> <td>1 3</td> </tr> <tr> <td>クリスマス忘年会</td> <td>2 5</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>拝賀式、初詣</td> <td>1・4</td> </tr> </tbody> </table>	月	行事	実施日	6	菖蒲、紫陽花見物	1 0	6	ユニット行事（外出）	2 5	7	昭和歌謡ライブ	2 7	9	ユニット行事（外出）	4	ユニット行事（発表会）	1 4	1 0	ユニット行事（外出）	2 5	地方祭	1 6・1 8	1 1	ユニット行事（紅葉）	8	1 2	船木小訪問	1 3	クリスマス忘年会	2 5	1	拝賀式、初詣	1・4
月	行事	実施日																																
6	菖蒲、紫陽花見物	1 0																																
6	ユニット行事（外出）	2 5																																
7	昭和歌謡ライブ	2 7																																
9	ユニット行事（外出）	4																																
	ユニット行事（発表会）	1 4																																
1 0	ユニット行事（外出）	2 5																																
	地方祭	1 6・1 8																																
1 1	ユニット行事（紅葉）	8																																
1 2	船木小訪問	1 3																																
	クリスマス忘年会	2 5																																
1	拝賀式、初詣	1・4																																

<いちようユニット>

重点目標及び課題	成果等
(1) 個別ケアの充実	① 個々にケアプランを作成し、その方に合った個別ケアを行い、認知症の有無を問わず、その人らしい生活を送れるよう援助を行うことに努め、24時間シートを活用し、個々の生活リズムの把握に努めた。
(2) 接遇の共通認識	① ユニットで毎月の目標を決め、利用者が安心して生活を送れる様に取り組んだ。また、月に1回のユニット会で目標に沿った対応が出来たかの話し合い

を持った。

(3) 年間諸行事

月	行事	実施日
5	菖蒲見学	1 7
	ドライブ (外食)	2 7
7	懐メロライブ	2 7
8	元船木夏祭り	3
9	似顔絵ボランティア	1 3
	森の発表会	1 4
	ちびっ子ワールド	2 6
	芋炊き	2 6
1 0	地方祭	1 6・1 8
1 1	紅葉見物	1 2・1 3
1 2	船木小訪問	1 3
	クリスマス忘年会	2 5
1	拝賀式・初詣	1・4
2	賀寿の祝い	1 5

※その他、個別に外出(買い物、外食、自宅への外出)を行った。

4. 栄養

重点目標及び課題	成果等																		
(1) 栄養ケアマネジメントの実践	利用者毎に栄養ケアマネジメントを実施し、栄養状態の改善と健康増進に取り組んだ。また、他職種で協議し経口摂取維持を最大限支援した。																		
(2) 食事内容の充実化	① 個人の摂食機能に応じた安全と楽しみのある食事の提供を目指した。																		
(3) 行事食	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>内容</th> <th>料理形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>お花見</td> <td>弁当</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>いもたき会</td> <td>鍋</td> </tr> <tr> <td>1 2</td> <td>クリスマス会・忘年会</td> <td>和洋食</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>お正月 (三が日昼食)</td> <td>ナリコマ (クックチル)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>賀寿のお祝い</td> <td>和食</td> </tr> </tbody> </table>	月	内容	料理形態	4	お花見	弁当	9	いもたき会	鍋	1 2	クリスマス会・忘年会	和洋食	1	お正月 (三が日昼食)	ナリコマ (クックチル)	2	賀寿のお祝い	和食
月	内容	料理形態																	
4	お花見	弁当																	
9	いもたき会	鍋																	
1 2	クリスマス会・忘年会	和洋食																	
1	お正月 (三が日昼食)	ナリコマ (クックチル)																	
2	賀寿のお祝い	和食																	

5. 医務

重点目標及び課題	成果等
(1) 日常生活の健康管理	① 日々、食事摂取状況・バイタル・排泄状況・身体状況及び介護職員の情報から、個々の健康状態の把

<p>(2) 他職種との連携</p>	<p>握に努め、個々の身体状態の異常の早期発見、早期対応にて医療機関の受診を行った。</p> <p>① 介護職員と情報の共有を図り互いに協力し、より良い介護が提供できるようにした。</p> <p>② 健康診断(4月・10月)・胸部レントゲン写真(12月)・随時の採血・食事摂取状況を把握し、各職種と連携して食事内容の変更・見直しを随時行った。</p> <p>③ 全国的な COVID-19 流行に伴い、感染予防対策を徹底した。</p>
<p>(3) 薬剤・投薬の適切な管理</p>	<p>① 定期処方・臨時処方の内容を確認し、間違いの無いようにした。配薬準備時は、看護職員・介護職員によってダブルチェックを行った。</p> <p>② 夜勤者に必要な頓服薬については必要量のみ鍵付き金庫に入れて手渡し、最終残薬は、夜勤者と早出看護師にて確認した。</p>
<p>(4) 職員への医療教育</p>	<p>① 入職時、医務研修を実施した。</p> <p>② 救急対応、看取りの対応について、介護看護共に共通認識がもてるよう研修会への参加・勉強会での伝達講習を行った。</p>

6.委員会活動

・運営委員会

重点目標及び課題	成果等
<p>(1) 各ユニット、部署との情報の共有</p>	<p>① 共有すべき情報を提供し、運営が円滑に進むように開催した。</p> <p>② 次月の行事について、各部署の調整を行いながら実施出来るように決定した。</p> <p>③ 次年度に引き続きマニュアルの順位付けを行い、内容の見直しを各担当者が行った。</p> <p>④ 各部署、各ユニットより課題項目を議題として解決に向けて取り組みを行った。</p> <p>⑤ 苦情、重大事故については経過報告を行い、未然に防ぐ対応策の協議を行った。</p> <p>⑥ 身体拘束の廃止に向けて、基本方針の確認や身体拘束となる具体的行為についての検討を行った。</p>

・研修委員会

重点目標及び課題	成果等				
<p>(1) 内部研修の実施</p>	<p>① 法令や運営基準に基づく必須研修を中心に、全職員対象の研修を実施した。</p> <table border="1" data-bbox="715 1910 1369 1989"> <tr> <td data-bbox="715 1910 805 1953"></td> <td data-bbox="805 1910 1369 1953">必須研修名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="715 1953 805 1989">①</td> <td data-bbox="805 1953 1369 1989">褥瘡対策に関する研修</td> </tr> </table>		必須研修名	①	褥瘡対策に関する研修
	必須研修名				
①	褥瘡対策に関する研修				

- | | |
|---|------------------|
| ② | 事故防止に関する研修 |
| ③ | 高齢者の虐待に防止に関する研修 |
| ④ | 感染症及び食中毒防止のための研修 |
| ⑤ | 看取りに関する研修 |

② 必要に応じ職員の要望を取り入れた内部研修やその時の情勢に合った内部研修を行った

月	研修内容	実施日
4	認知症・口腔ケア	1 7
5	身体拘束に関する研修①	1 5
6	感染症・食中毒	1 1
7	事故防止	1 3
9	褥瘡予防	1 9
1 0	身体拘束② 虐待防止	8
1 1	感染予防に関する研修	2 8
1 2	施設内実践発表	2 6
1	看取りに関する研修	3 0
2	リスクマネジメント	2 1
3	事故防止	中止

(2) 新任職員への研修

入職時の施設長研修を中心に、各職種に必要な基礎研修を実施した。実際の業務についてはO J Tを通して、一対一での指導を行った。

(3) 外部研修への参加

研修開催要項が到着次第開示して希望者を募った。希望者が無き場合は、施設長より指名を行い参加してもらった。研修後は、情報を全職員が共有出来るように報告会を開催した。

・給食委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 利用者個々に合った食事の提供	多職種で話し合いを行い、利用者個々に合った形態で食事を提供できるようにした。
(2) 食事内容の充実化	毎月の給食委員会のほかに、利用者・職員の意見を参考にし、行事食の充実化を図り季節感のある食事の提供に努めた。
(3) 自然排便・排便コントロールの実施	排泄委員会や医務と連携し、自然排便を促す工夫をした。

・感染対策委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 定期的な委員会の開催	年中を通して食中毒や感染症が流行する時期を想定して事前に委員会を開催して対応策を講じた。また、経験の浅い職員については、誤った対応をしな

<p>(2) マニュアルの見直しと活用</p>	<p>いように基礎から指導した。状況に応じて早期に対応出来るよう都度、委員会を開催した。</p> <p>既存のマニュアル・指針を委員が中心となって見直しを行った。また、手順書についても現実に則した内容に訂正を行い内部学習会でも感染物処理法についても委員が中心となり実技演習を行った。</p>
<p>(3) COVID-19 など感染症対策広報活動</p>	<p>① 最新の流行情報を入手して全職員に伝達を行った。また、緊急を要する連絡事項については速やかにグループラインにて伝達を行えた。</p> <p>② 11月より3月末まで、職員・利用及び面会者に、うがい・手洗い・手指消毒・マスク着用で感染防止に努めていたが、COVID-19 拡大防止により面会規制や面会謝絶を行い感染拡大防止に努めた。また、社会情勢が変わる都度、臨時の会議を開催してルールの変更や各種の情報伝達に努め職員個人個人への情報伝達が行えた。衛生材料の入荷については、入荷待ちとなっており苦慮した。</p>

・入浴委員会

重点目標及び課題	成果等
<p>(1) 利用者個々にあった入浴方法と本人の要望に添った入浴の取り組み</p>	<p>① 利用者の日常の生活リズムを把握し、マンツーマンでの入浴対応を行った。入浴時間や形態を本人の要望に添って入浴出来るように行った。</p>
<p>(2) 安全な入浴支援への取り組み</p>	<p>① 入浴時の事故防止の為、入浴前入浴中の安全確認を継続して実施した。(備品やストレッチャーの動作確認)</p>
<p>(3) 快適な入浴環境の整備</p>	<p>① 入浴介助後の清掃・点検を職員に改めて注意して行うよう周知し、清潔保持に努めた。月に1回の浴室内溝清掃、3ヶ月に1回のカビ取りを実施した。また、入浴担当者によるシャンプー類等の補充を定着させ、不備のないように努めた。</p>
<p>(4) 感染対策</p>	<p>感染症のある利用者の対応について、改めて職員に周知して介助時に実行出来るようにした。</p>

・防災対策委員会

重点目標及び課題	成果等
<p>(1) 防災訓練の実施</p>	<p>① 災害発生時に入居者の安全確保に迅速に対応できるように、計画的に消火訓練・避難訓練を昼間想定、夜間想定で実施した。夜間想定時には消防署員に立会をいただき火災や避難に対する指導を受けた。</p> <p>② 消火・避難訓練以外にも、水害、震災訓練(シェイ</p>

(2) 地域防災	クアウトえひめ) を計画的に訓練を行った。また、訓練前に、各部署・各ユニットへの参加周知及び参加職員との事前確認を行い、円滑に訓練を行った。
(3) 防災活動	① 地域防災協定に基づき、合同防災訓練に参加した。また、事前に行われる準備会議にも委員が出席して交流を深めた。
(4) その他	① 日頃より、防災に関する敷地内パトロールを定期的に行い、施設内外の危険個所を把握改善、防災設備の点検整備等の防災対策を徹底した。 ② 備蓄品や避難経路図を常日頃より確認を行い、追加購入や変更が必要な場合は適時対応をした。
	① 職員の交通安全意識を高める為、新居浜警察署員を招き安全運転に関する講習を行った。

・排泄委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 利用者個々にあった排泄の方法と褥瘡予防への取り組み	① 排泄介助時には皮膚観察も常に行い、褥瘡や皮膚の爛れのある方は医務との連携を取り、早期対応処置を行った。 ② 利用者さんの個々の排泄量に合わせパットの見直しを都度行い、快適に過ごせるよう努めた。
(2) 感染予防	トイレ誘導後、オムツ交換後に職員が感染の媒体にならないように、手洗い・アルコール消毒の実施を徹底した。
(3) プライバシーの配慮	相手の立場にたった介助を心掛け、プライバシーに配慮した介助に努めた。
(4) 環境整備 ・環境委員会	① 利用者のトイレ使用時にはいつでもトイレ内が清潔に保たれているよう、掃除を徹底した。 ② 気持ちの良い排泄をして頂けるよう排泄委員が中心となり、都度対応方法を検討した。

・環境委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 敷地内外掃除の実施	① 施設敷地内外と駐車場を各部署、各ユニット週ごとに交互に出勤時間内にて掃除を実施し、チェックシートにて記入管理をした。 ② 室外の排泄物等のゴミ箱の掃除を実施した。 ③ 職員使用の靴箱、傘立ての片づけを実施した。また、不要なものは処分した。

(2) 洗車・車内清掃	① 定期的に行った。
(3) 設備の点検	① 各部署、各ユニットごとに施設内、敷地内の危険個所と思われる場所をアンケートし委員会にて解決策を提案した。

・褥瘡委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 施設内の褥瘡予防対策を効果的に推進した	<p>① 令和元年度の褥創者は2件だった。1名は他施設からの治療中褥瘡であったが、他の1名は褥瘡瘢痕からの再発であった。</p> <p>① 褥瘡対策委員会は、1ヶ月に1回（定例開催以外にも必要に応じて随時）開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡及び合併する感染症の予防体制の確立 ・褥瘡予防に関する情報の収集（身体状況、皮膚状態、栄養状態等の把握） ・施設内であった褥瘡事例の対応策 ・褥瘡予防の為のマニュアル類の整備 ・職員を対象とした褥瘡予防に関する研修の実施 ・その他、当施設内の褥瘡予防の為に必要な事項定期健康診断・ブレイデンスケールを活用し、褥瘡ハイリスク者計画を随時立案・修正行った。 <p>・年に2回利用者の血液検査を実施し褥瘡リスクの確認を行った。</p>

・看取り委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 当たり前、あるがままの生活、我が家のような生活に沿い、安らかな最後を迎える為の、様々なサービスの充実を図る事を目的とした。	<p>3名の看取り対象者がいたが、家族に喜んでもらえた看取り介護を行えた。</p> <p>家族との連絡相談を密にし、できる限り本人、家族が望むサービスを実施した。</p> <p>食事摂取が難しい状態であっても、本人に食べたい意思があり、家族が同意した場合は、嗜好品を無理しない程度に形状を工夫して、看護職員、家族立ち合いのもと提供できた。</p>
(2) 看取り介護委員会の開催	<p>看取り介護委員会を、必要に応じ随時開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各職種の役割 ・看取り時の介護体制 ・看取り介護に携わる者の体制及び記録等の整備 <ol style="list-style-type: none"> 1 医師の指示書 2 看取り介護同意書 3 看取りカンファレンスの開催 4 看取り介護計画書「変更、追加」

	<p>5 経過観察記録</p> <p>6 臨終時の記録</p> <p>7 看取り介護終了後のカンファレンス会議録</p>
(4) 施設内研修会、勉強会の開催、外部研修会への積極的参加	<p>① 1月に看取り研修を実施した。現在の看取りと考え方をDVDを使用して伝達した。</p> <p>② 新任者に対する看取り介護の教育、研修を実施した。</p> <p>③ その他必要な教育、研修があれば参加した。看取り観覧研修への参加、勉強会を通し、職員への看取りに関する知識の共有を行った。</p>

・運営推進委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 施設運営の理解と透明性の確保	<p>① 施設サービスの内容を説明した。</p> <p>② 施設生活や生活支援の実際に説明した。</p> <p>③ 「利用者や家族のニーズ」を説明した。</p>
(2) 地域とのネットワーク作り	<p>① 運営推進会議を通して施設の地域とのかかわりを深めた。</p> <p>② 地域住民との意見交換を行った。</p> <p>③ 地域や地域住民が持つ「カ」や「ニーズ」を把握する場にした。</p>
(3) 施設における施設の有効活用	<p>① 相談・連携等がスムーズに行えるように地域の窓口として、活動を行った。</p> <p>② 行政職員が持っている制度・地域状況・各種資源などの情報提供を行った。</p> <p>③ 地域住民や行政職員も交えながら、利用者家族や地域住民のニーズを吸い上げ、新たなサービスのあり方を検討または実施した。</p>

・接遇委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 職員へのアンケート実施	<p>職員へ接遇の基本の6要素のアンケートを実施した。その結果を職員に周知し、反省すべき事は協議し、その結果を今後活かすようにした。</p>
(2) 言葉遣いと身だしなみについて	<p>接遇委員会の中で、利用者に対する言葉遣いについて協議した。丁寧な言葉遣いと共に、利用者が親しみを感じやすい方言を交えるなど、職員が色々と工夫して声掛けを行っていくことも必要であると話し合った。</p> <p>職員の身だしなみについて20代の若い職員を中心に話し合いを行った。頭髪の長さ、色などに明確な基準は設けなかったが、頭髪が長く介助に支障が</p>

	ある場合は後ろで束ねる、頭髪の色は明る過ぎる色は避ける、アクセサリ類は勤務中は必ず外す、清潔感のある落ち着いた服装をする等々、身だしなみの基本的なマナーについての見直しを行った。
--	---

・ 認知症委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 認知症に対する理解と対応について	① 毎月1回、認知症のある方の現状を理解しながら対応方法を他職種で検討した結果、色々な関わり方など話し合うことができた。改善できない時はその都度、医務や相談員に相談しながら対応を実施した。 ② 水分・排泄・緩下剤の調整を取り組み、多職種で話し合い、認知症の方が落ち着いた生活を送れる様に話し合った。
(2) 嘱託医（心療内科医）との連携	各ユニットで問題行動のある認知症の方への治療を、心療内科医及び看護職員と連携し、服薬調整を行った。

・ 広報委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) ホームページの活用	施設開設のブログを更新し情報発信するつもりであったが、有効活用することができなかった。
(2) 広報誌の発行	2ヶ月に一回の広報誌発行により、利用者の生き生きとした姿を紹介することで、家族や地域の方々に施設について広報を行った。
(3) 地域住民への働きかけ	7月には地域住民を対象に昭和ナツメロライブを行うことで、施設に親しみを持ってもらえるよう働きかけることができた。

・ 口腔ケア委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 口腔ケアの充実	① 月2回以上の歯科医師と歯科衛生士による専門的口腔ケアの実施を通じて、口腔ケアに関する知識と意識を高め、統一した口腔ケアの実施に取り組んだ。 ② 歯科医師の回診に看護職員が付き添うことで、受けた指導を各ユニットへスムーズに伝達を行った。 ③ 月2回以上の歯科医師と歯科衛生士による専門的口腔ケアの実施を通じて、治療が必要な利用者に関して、本人や家族の意向を確認し対処を行った。

ショートステイふたばの森

総合目標及び課題

利用者及びご家族が安心して在宅生活を継続できるよう、内外部との連携を取り合い支援した。

1.生活相談員

重点目標及び課題	成果等
(1) ショートステイの稼働率の維持・向上のための取り組み	年間目標平均稼働率93%に対し、年間平均稼働率88.4%であった。また、下記とおりに取り組んだ。 ① 継続的な利用をしていただけるよう、家族・ケアマネと情報を共有し、利用者本人・家族が安心して利用できるよう努めた。長期間利用がなかった方の利用の再開の際は面接等を行い、ご家族、ケアマネ、各部署と情報を共有し、安心した利用をしていただくことができた。 ② 緊急的な利用者の受け入れについては、入退所の時間や送迎の時間調整を行い対応することができた。 ③ 新規利用者の受け入れ時には、綿密な情報収集を行うと共に、説明不足によるトラブルのない様に心がけた。 ④ 施設見学や問い合わせの際は、施設の特徴などを丁寧に説明することで新規の利用につなげることができた。 ⑤ 利用者、家族の利用ニーズを把握することで、利用のキャンセルがあったときに空床を埋めることができた。

2.介護

重点目標及び課題	成果等
(1) 個別ケアの充実	① 利用者それぞれの生活や性格、生い立ち、家族構成などを把握し個別性・専門性の高い介護を個別に行った。 ② 利用者及び介護者の個々の心身の状態やニーズを把握することに努め、ADLを維持し住み慣れた地域、自宅での生活を長く続けられるよう自立支援の支持を行った。
(2) 統一したサービス支援の提供	① 要介護者の状態を把握し、情報の共有を行うことで統一したサービスが提供できるよう支援を行った。 ② 介護支援専門員を中心に他職種協働で、利用者、家族のニーズに応じたサービス計画書を作成し、機能維持及び向上、自立支援を実践した。

<p>(3) 接遇の共通認識</p>	<p>① 言葉使い、礼儀を徹底するとともに親しみやすい方言を交えるなど工夫した。</p> <p>② 落ち着いた清潔感のある服装や身だしなみを心掛けた。</p> <p>③ 丁寧語を使用し、声のトーンや口調、表情にも気をつけ介助を行った。</p> <p>④ 「ありがとうございます」の感謝の気持ちを常に持ち利用者とは多く関わった。</p>																																																			
<p>(4) 年間諸行事</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>行事</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>つつじ見物</td> <td>下旬</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>菖蒲見学</td> <td>中旬</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>懐メロライブ</td> <td>2 7</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>スイカ割り大会 夏祭り</td> <td>7 3</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>似顔絵ボランティア</td> <td>1 3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>森の発表会</td> <td>1 4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ちびっこワールド園児 訪問</td> <td>2 6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>芋炊き</td> <td>2 6</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>太鼓祭り見学</td> <td>1 6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>神輿見物</td> <td>1 8</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>紅葉見物</td> <td>中旬</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>船木小学校訪問</td> <td>1 3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>クリスマス忘年会</td> <td>2 5</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>新年式</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>初詣</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>賀寿の祝い</td> <td>1 5</td> </tr> </tbody> </table>	月	行事	実施日	4	つつじ見物	下旬	5	菖蒲見学	中旬	7	懐メロライブ	2 7	8	スイカ割り大会 夏祭り	7 3	9	似顔絵ボランティア	1 3		森の発表会	1 4		ちびっこワールド園児 訪問	2 6		芋炊き	2 6	10	太鼓祭り見学	1 6		神輿見物	1 8	11	紅葉見物	中旬	12	船木小学校訪問	1 3		クリスマス忘年会	2 5	1	新年式	1		初詣	4	2	賀寿の祝い	1 5
月	行事	実施日																																																		
4	つつじ見物	下旬																																																		
5	菖蒲見学	中旬																																																		
7	懐メロライブ	2 7																																																		
8	スイカ割り大会 夏祭り	7 3																																																		
9	似顔絵ボランティア	1 3																																																		
	森の発表会	1 4																																																		
	ちびっこワールド園児 訪問	2 6																																																		
	芋炊き	2 6																																																		
10	太鼓祭り見学	1 6																																																		
	神輿見物	1 8																																																		
11	紅葉見物	中旬																																																		
12	船木小学校訪問	1 3																																																		
	クリスマス忘年会	2 5																																																		
1	新年式	1																																																		
	初詣	4																																																		
2	賀寿の祝い	1 5																																																		

デイサービスセンターふたばの森

総合目標及び課題

利用者一人ひとりの意思、人格を尊重し利用者の立場に立った指定通所介護事業及び指定介護予防通所事業を実施し、身心機能の維持向上や社会的孤立感の解消、家族の身体的、精神的負担の軽減を図り、利用者の在宅生活支援を目的とした。

1.生活相談員

重点目標及び課題	成果等
(1) 稼働率の維持・向上の 為の取り組み	<p>年間平均稼働率80%の目標に対して、80.7%の稼働だった。</p> <p>① 令和元年度新規利用者40名、終了者40名であった。</p>

	<p>② 曜日や利用回数の変更等、家族や居宅支援事業所、地域のニーズに応え、利用者に異常が見られた場合は迅速に情報の提供を行った。</p> <p>③ 空き状況を毎週、FAXで居宅支援事業所に通知し新規利用者獲得に努めた。</p>
--	--

2.介護

重点目標及び課題	成果等
(1) 質の高い介護サービスの提供	<p>① ポイント制度を利用した利用者個別のニーズに重点を置き、「利用者が何かしてもらおうデイサービス」ではなく、「自ら楽しみを発見し行動を起こせるデイサービス」を目標とした。</p> <p>② 社会資源の活用 ポイント制度を利用し、積極的に社会資源を活用し、社会からの孤立を防ぐとともに、心身のリフレッシュが行えた。</p> <p>③ 資質向上 各種研修会に積極的に参加し、知識・技術の向上に努めた。また、外部研修等については、部署会にて報告を行い、職員全体で知識・技術を共有しサービスの質の向上に努めた。</p>

3.看護

重点目標及び課題	成果等
(1) 健康管理	<p>① 利用者の健康状態を観察・把握し、健康管理及び健康指導に努めた。また、緊急時には、家族及び主治医との連携による迅速かつ最善の対応に努めた。</p> <p>② 感染症予防のための適切な対応および対策の徹底に努め、感染の拡大を防いだ。</p>

4.健康長寿地域拠点作り

住民が実施主体となって、自治会館等を活用した通いの場を作り、高齢者が健康づくり（PPK体操）や仲間づくりに取り組めるよう技術的な支援をすることを目的とした。

重点目標及び課題	成果等
	<p>① 新たに4拠点を開設し、3拠点で1年半の指導を終了した。また、令和元年度は、既に指導を終了した自治会に対して、介護予防講座等の内容を含んだ継続支援の活動も新たに行った。</p> <p>・実施自治会数 22件（内：継続11件）</p>

5.一般高齢者介護予防教室 (元気もりもり教室)

参加者の日常生活上の課題を解決するために、運動機能向上、栄養改善、口腔機能向上、認知機能改善、セルフケア能力・ソーシャルスキルの向上プログラムを複合的に実施し、生活機能の改善を図ることを目標に教室を開催した。

実施期間：10月 2日 ～ 12月25日
 毎週水曜日： 13：30 ～ 15：30
 実施場所：船木公民館
 参加人数：15名。

回数	内容
1回目	開講式、教室の説明
2回目	〈口腔〉」 口腔ケアのススメ
3回目	〈栄養〉 高齢期の栄養のイロハ
4回目	〈ケア〉 地域包括支援センター・介護保険
5回目	〈認知〉 認知症を知ろう
6回目	〈口腔〉 口の中を清潔、健康に
7回目	〈ケア〉 検診の活用・服薬管理
8回目	〈認知〉 認知症を予防しよう
9回目	〈ケア〉 医療と介護の連携
10回目	〈栄養〉 今後に備えよう
11回目	〈認知〉 認知症が疑われるときは
12回目	〈栄養〉 高齢期にも気をつけたい肥満
13回目	〈ケア〉 社会資源の紹介・閉講式

グループホームふたばの森

総合目標及び課題

利用者ごとの潜在的な能力に働きかけ共同生活内での役割や主体的な活動を支援し、
 認知症状の進行を穏やかにするように努めた。

目標及び課題	成果等
(1) GH稼働率の維持・向上のための取組	<p>① 年間を通して稼働率98.0%を目標とし維持・向上できるよう健康管理・事故防止に努めたが、入院者が昨年度より多く発生したことにより、稼働率97.1%だった。</p> <p>② 利用者ごとに担当職員を配置し摂食量・栄養バランス、水分摂取量等の観察・評価を行い、必要栄養の維持及び改善の取組推進を行った。</p> <p>③ 歯科医師及び歯科衛生士からの口腔ケアに係る技術的助言及び指導をもとに口腔ケアを実施し口腔衛</p>

<p>(2) 認知症ケアの実践</p>	<p>生管理の充実を図った。</p> <p>① 利用者ごとの介護計画に基づき利用者ごとの役割や生活習慣に配慮したケアの提供を行った。</p> <p>② 利用者の重度化に対応し、ターミナルケア実践に努めた。</p> <p>③ 認知症内部研修及びその他の外部研修（喀痰吸引研修）に参加した。</p>
<p>(3) 外出への取組</p>	<p>① 外食や買い物等、利用者の意向をくみ取り、それに合わせ外出を企画・実行した。</p> <p>② 定期的に季節行事（花見・紅葉他）、外出・散歩等の機会を設けて行った。</p> <p>③ 各種地域社会資源との交流の機会をふやした。</p>